



本康歯科ニュース



世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！と思ってもらえる歯科医院めざして！

新型コロナワクチンと歯科治療について

長浜市でも5月20日より75歳以上の方の予約が始まりました。皆さん順にワクチン摂取をされることだと思います。そこで、歯科治療についての注意事項が一つあります。

ワクチンを接種される前後1週間は、抜歯やインプラン手術、歯周病の手術等の観血的治療を避けた方が良いことが言われています。炎症が手術によるものなのかワクチンの副反応なのか分からないですし、手術の炎症を抑える為のお薬が飲めなかつたりします。まだわからないことが一杯あり、ワクチン接種後の発熱に対する薬も何が良いかはっきり分かっていません。第一選択薬は「カロナール」と言われていますが、とりあえず、

ワクチン接種前後1週間は観血的治療を避けましょう。

(歯科医療機関における対応)

Q8. 来院患者がワクチン接種を予定していることが分かった場合、抜歯手術等は延期が必要か。

A8. 日本歯科医学会連合及び厚生労働省に確認したところ、現時点では新型コロナウイルス感染症のワクチン接種と歯科治療における観血処置等に関するエビデンスは示されておらず、関連するガイドライン等もない状況である。したがって、ワクチン接種の進捗状況を鑑み、問診時にワクチン接種予定を確認した上で、患者の状態等を踏まえて主治の歯科医師として判断することになる。

参考までに、本年3月24日に日本麻酔科学会のホームページに公表された内容を添付する。なおこれは「全身麻酔による手術」に関するもので、米国疾病予防管理センター(CDC)、英国RCS(Royal College of Surgeons of England)のステートメントを紹介している。

RCSは患者の手術を計画するときは、

- ① ワクチン接種の状況に関係なく、必須の緊急手術を行う必要がある。
- ② 緊急でない待機手術は、ワクチン接種後すぐに行うことができる。手術日とワクチン接種を数日間(最大1週間)空けると、術後の発熱などの症状の原因が、接種によるものか、手術自体の結果かどうかを区別できる、としている。

なお別にCDCは、「ワクチン接種後2週間空けるように。」としている。

歯とお口にまつわる歴史

デンタルヒストリア

ワシントン大統領は歯で苦労していた？

アメリカ初代大統領のジョージ・ワシントンは若い頃から歯が悪く、28歳の頃には入れ歯をしていて、生涯で7度も入れ歯を作ったそうです。そして、68歳の頃には自分の歯は1本も残っていなかったそうです…。当時のスプリングで装着する入れ歯は、うっかりしていると口から飛び出てしまうため、しっかりと噛んで口を閉じる必要がありました。1ドル紙幣に描かれているワシントンの肖像画はちょっとしかめっ面のようにも見えますが、**入れ歯が飛び出さないように噛みしめていた**のでは？とも言われています。ちなみに、歯の痛みには耐えられなくて公務を休むこともあったそうですよ。

